



11月15日のデビューイベントではからいも4種の食べくらべを実施、種類による味の違いに参加していた人は驚いていました  
中でも貯蔵した「紅はるか」と未貯蔵の同じものとを比べると糖度が2倍近く違うため「特に甘い」と人気でした

Public relations  
OZU TOWN

広報おおづ 2015 12

発行・編集 大津市・総合政策課  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地  
TEL096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報おおづは紙面に限り再生紙と植物性インクを使用しています。

印刷 印刷工房株式会社

UD FONT  
画やしく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

# 「『全て』の人に大津のからいもの魅力を知ってほしい」



## 二代目イモセガレブラザーズ

みやもとたつり 宮本辰徳さん  
ふるさわたくや 古澤卓哉さん  
さかもとつよし 坂本強志さん  
ふるしゅうゆうすけ 古庄祐輔さん  
なかむたじゅんや 中無田淳也さん  
なかせやすゆき 中瀬靖幸さん

黒のハンチング帽に白いシャツ、黒いエプロンを身につけた6人の若者たち。一見するとカフェ店員のようにも見える彼ら、実はからいも農家だという。今回はそんな「二代目イモセガレブラザーズ」をクローズアップする。

彼らは、町が主催する大津まちおこし大学、実践研究科の受講生で、「消費者とつながっていききたい」との思いを持つ若手農家の集まり。

そして、農業が変化している今、自分たちも変化していかなければと立ち上がった6人だ。

ひとくちに「からいも」といっても、「ほりだしくん 高系14号」や「紅はるか」、「シルクスイート」など、味も風味も違う種類がある。そのためおいしいと思える「からいも」もそれぞれ。だから「自分のおいしいと思う大津のからいもを見つけてもらいたい」と語る。「熟成されたからいものおいしさを知ってほしい」。そのような想いで行われたデビューイベントでは100組のオーナーのうち24組、約100人が芋掘り体験に参加した。試食に出した4種類の「からいも」はそれぞれの個性が光る。貯蔵した「紅はるか」が一番人気ではあったが、参加者それぞれの好きな「からいも」の種類が見つかったようだった。

彼らの「二代目イモセガレブラザーズ」という名前に対する想いは強い。みんな農家のセガレたち。先人たちの「背中を見て」「肌で感じて」育ってきた。彼らのからいもとまっすく向き合う姿勢はそんな先人たちに伝えられたとしても過言ではない。

大津を「からいもの町」にしてくれた感謝の意味をこめた「二代目」の文字。「初代」を受け継ぐという彼らの意思の表れである。「全ての人に大津のからいもの魅力を知ってもらいたい」という想いは熱い。

「二代目イモセガレブラザーズ」の活動はまだ始まったばかり、彼らの蝶のような小さな羽ばたきがいつか地域を巻き込む大きな渦になっていくかもしれない。

## ついでの声

▼12月号はからいもだけでなく表紙の色はからいもくんの鼻の色です。  
▼役場で働き始めてから、はじめての天気の良いからいもフェスティバルでした。活気があって楽しいイベントでした。▼二代目イモセガレブラザーズの貯蔵熟成イベントも参加してきました。新しい取り組みはワクワクしますね。▼二代目イモセガレブラザーズは新しい「セガレ」を募集しているそうです。若手からいも農家で興味のある人はぜひ問い合わせしてみてください。(DEO)

## からいもくん便り

大津町総合情報メール  
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。  
登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。  
QRコード

12

DECEMBER 2015

今月の表紙

11月8日に行われた「第27回からいもフェスティバルinおおづ」でのコマ。芋ほり大会に家族で参加してくれました。大きなからいもに大興奮。「からいもを見せて」に最高の表情で答えてくれました。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報  
**おおづ**

今月のみどころ

大津元気くんの「マイナンバー」ってなに?⑤

マンガで元気くと学ぼうマイナンバーの第5回最終回です

第27回からいもフェスティバルinおおづ

今年もたくさんの方が会場を訪れました